

2025年9月30日 甲府市議会 本会議場

2024年度各決算に対する反対討論

イベントの繰り返しと市職員数削減では、
生活困難期の市民生活は守れない！

山田 厚

議案第95号令和6年度甲府市一般会計、国民健康保険特別会計と介護保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計の各決算。議案第99号水道事業会計の決算に対する反対討論をいたします。

●一般的に「緩やかな景気回復」などされているものの、多くの市民の状況としては、この時期、過酷な生活苦・労働苦が社会をおおっています。

- ・「エンゲル係数」は全国平均27.5%で歴史的な高水準。
- ・高齢者虐待の通告・相談件数、過去最多。
- ・孤立死は7万6020人で過去最多。
- ・無縁遺骨、過去最多。
- ・自殺した小中高生は529人で過去最多。
- ・認識された殺人件数は10年間で最多。
- ・労働者の心の健康不調過去最多。
- ・休廃業・解散の過去最多ペース。
- ・負債1億円未満の倒産は30年間で最多。

しかも黒字大企業からも「早期・希望退職」数が激しくなり、2008年のリーマンショックを上回るリストラ・失業がはじまっています。

戦後最悪と思われる生活と労働の過酷さは、甲府市も例外ではありません。この事態において甲府市は何よりも市民生活を守らなければなりません。自治体の自立性・自主性とは、国策優先ではなく、本来の目的である「住民福祉の増進」だからです。

しかし甲府市の一般会計や各会計を見ても、大企業や華やかな事業優先であり、イベントが多くされても、市民生活や働く者を守る立場とは言えなくなっています。

●甲府市の各決算では、

- ・甲府市が手を挙げた有料建築物等整備事業としての**岡島デパート跡地建設**も心配です。甲府市はすでに多くの補助金を支出しているものの、業者の計画自体が二転三転し、今後どうなるかも極めて疑問です。
- ・また、「**リニア**は千載一遇のチャンス」とされて10年、「夢のリニア」としながら50年、開業自体もいつになるか分からないリニアへの膨大な投資計画も疑問です。
- ・創業者が甲府市出身であるサンリオのミュージアムやコストコ開業、「甲府」と名がつくトイザラス甲府昭和店オープンなど、どうして近隣に持っていかれてしまうのか？ 甲府市の**企業誘致**としては、手をこまねいていた「不作為」とも言われてしまうでしょう。
- ・**危機管理・防災対策**では、洪水や感染症に伴う防災倉庫の防水対策や避難所増設も不十分なままです。
- ・甲府市の**労働相談**も開店休業状態の日が多いままです。**シルバー人材センター**の扱いもしっかり支えているとは言えません。
- ・甲府市の**都市計画税・法人市民税**は高い税率のままで、この時期でも是正もされず、市民や中小零細経営への負担が高いままの自治体になっています。
- ・国策優先で甲府市独自の支援が見られないのが各種保険料の負担増です。
介護保険の特に困難な訪問介護や包括支援センターの支援対策です。
負担増がはじまった**後期高齢者医療**保険料。
政令方針そのままで上限額年106万円にもなった**国保保険料**の連続負担増。この保険料では所得700万円～800万円台の家庭では年9回払いの保険料で月12万円弱です。ちなみに2025年では年109万円の保険料にもされています。
- ・**水道使用料**の引き上げをしても、有収率の低下などインフラ整備はこれからで、流動比率は極めて高くなるばかりです。

- ・「**子どもファーストの甲府市**」としながらも、2024度では、他の多くの自治体で始めている学校給食無償化、国保保険料の子どもへの均等割り軽減、保育料の軽減、自治体独自の奨学金制度。就学援助の援助項目拡大も未実施。学童保育＝放課後児童クラブの夏休み対策のなど・・・その不十分さが目立っています。

遠隔距離通学定期券購入補助では、生計を維持していない学生さんにも税金などの滞納があるとペナルティとして補助しないなど・・・これでは県内でも遅れていて一昨年度ようやくの開始された高校生までの「子育て医療費助成制度」をみても、「子どもラストの甲府市」になってしまいます。

総じて、物価高騰インフレ期で市民生活が極めて困難な時に負担が強められるば

かりで、自治体独自の支援や減額免除制度もしっかり機能しているとは言えません。
また、掲げられた**プレミアム商品券**も物価対策効果として成功したとは言えません。

●おひざ元の市職員も大切にしているとは言えません。

会計年度職員が増やされても、甲府市としての処遇改善やこれまでの専門性が大切にされていません。

正規職員へは「超過勤務の規制」ばかりで、増えている仕事量が削減できなければ、職員の人手数が増やされなければ、職員の「自己責任化」でしかありません。

また、職員の賃金も足りません。総務省の資料を見てください。国家公務員と比べるラスパイレス**賃金指数**は、甲府市職員は毎年下がりつづけ、中核市平均より、全国市平均より下回りつづけています。

同じく総務省の『類似団体比較カード』では、「人口一人当たり」の**職員数**も、甲府市は他の自治体平均より少なく、「人口一人当たり」の**賃金**も平均より低いと記載されています。

そもそも、この何年間の甲府市の職員数は**条例定数より実員数**は300名以上も足りず、2024年度は333名も足りない状態でした。

これでは多忙化の中で、職員の**心身の健康不調**はつづくばかりです。昨年度は、傷病休暇88名、病気休職53名、自己都合退職64名。これは戦後最多と思われます。

この甲府市職員の状態とは、窓口業務をはじめ市民生活へのサービスを確実に低下させることになります。

この物価高騰インフレ期であっても条例・規則・要綱にもある様々な税・保険料・使用料の**減額免除制度**の適用が不十分なことにも表れています。

また、道路の白線や公園・広場の管理など、些細なことからも市民の安全も守れないことにもなります。それは警報発表時の職員配備態勢をみても大規模災害に対応できるのかと心配です。

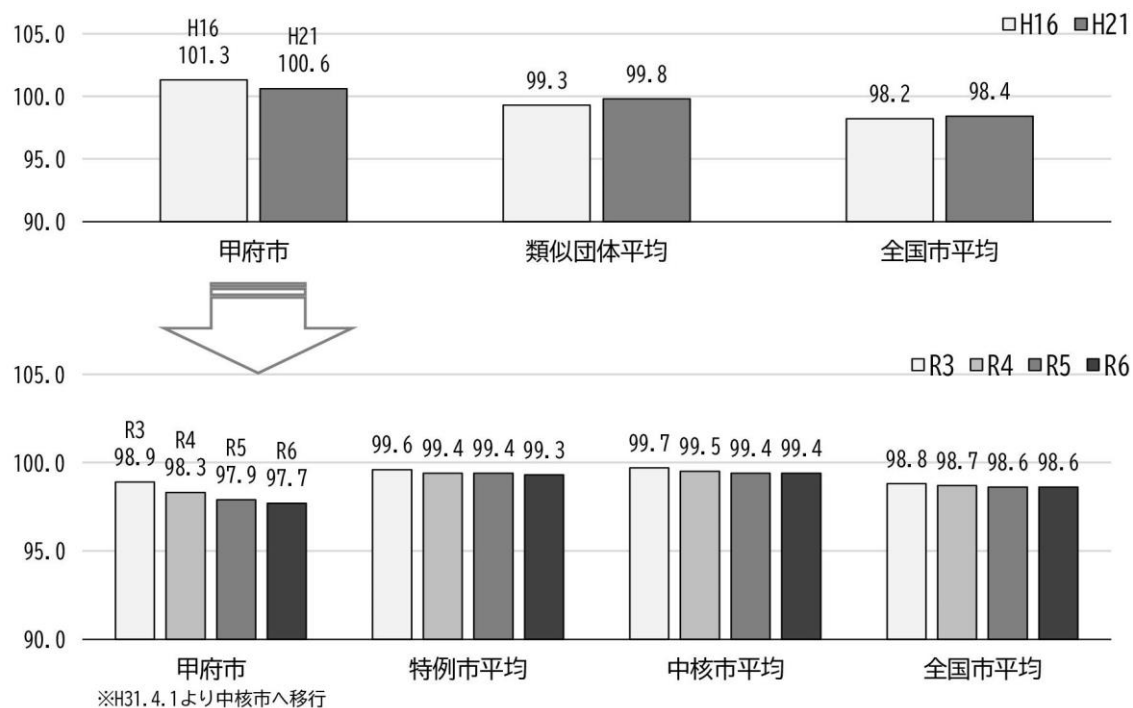
処遇改善が見られない職員の多忙化と人手不足は、市民対応を粗雑にさせます。経験や業務知識や部や課をこえた連携を不十分にさせ、地味で丁寧な細かい具体的な市民対応を困難にしていけます。

あくまで市民生活を守り「福祉の増進」にむけて是正と改善を求め、「このままでもいいのか！」との思いから、討論いたしました。

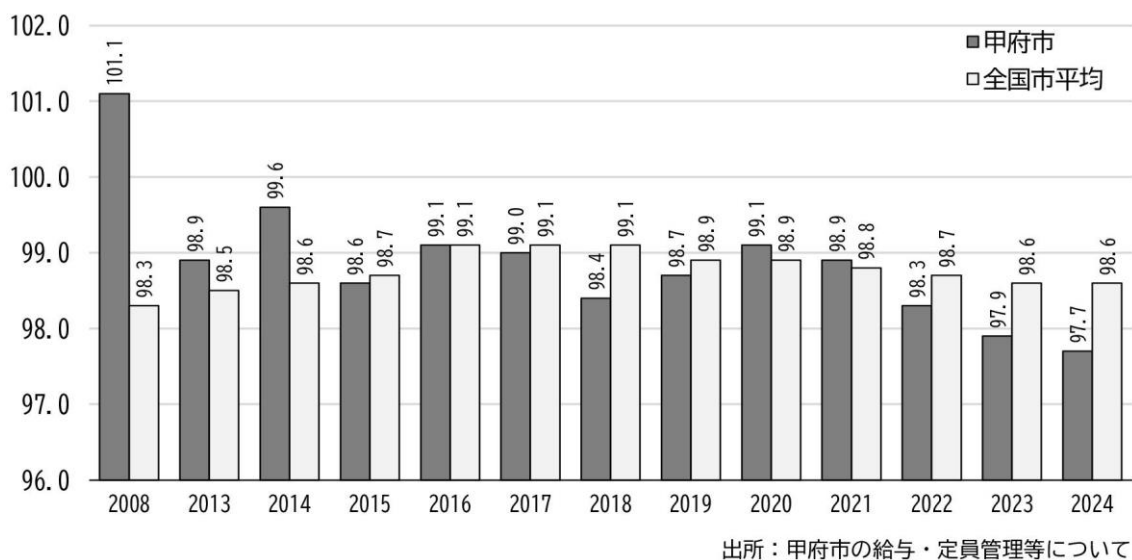
以 上

他の市より給与減が大きい甲府市

ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



【甲府市】ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



平成25年度→令和5年度財政状況の推移

人口千人当たり職員数（人）						
区分	当該団体			類似団体		
	H25	R5	(H25→R5)	H25	R5	(H25→R5)
一般職員	4.88	5.48	(0.60)	5.84	6.25	(0.41)
うち技能職員	0.82	0.50	(▲ 0.32)	0.63	0.52	(▲ 0.11)
教育公務員	0.34	0.35	(0.01)	0.25	0.26	(0.01)
臨時職員	-	-	-	0.01	0.01	(0.00)
合計	5.23	5.83	(0.60)	6.10	6.52	(0.42)

人口1人当たりの職員給の額（円）						
区分	当該団体			類似団体		
	H25	R5	(H25→R5)	H25	R5	(H25→R5)
本庁	23,037	23,810	(773)	17,715	19,620	(1,905)
支所・出張所等	1,878	6,128	(4,250)	8,148	11,509	(3,361)
施設	8,354	6,323	(▲ 2,031)	11,382	10,569	(▲ 813)
合計	33,269	36,261	(2,992)	37,245	41,697	(4,452)

特別職の給与等の状況（月額平均、百円）						
区分	当該団体			類似団体		
	H25	R5	(H25→R5)	H25	R5	(H25→R5)
市区町村長	9,720	10,800	(1,080)	9,254	10,419	(1,165)
副市区町村長	7,920	8,800	(880)	8,017	8,772	(755)
教育長	6,795	7,550	(755)	7,020	7,440	(420)
議会議長	6,600	6,600	(0)	6,355	7,115	(760)
議会議員	5,900	5,900	(0)	5,368	6,055	(687)

出所：総務省「財政状況類似団体比較カード」

- ・人口千人当たりの職員数は、類似団体より少ない
- ・人口1人当たりの職員給は、類似団体より少ない
- ・市長／副市長／教育長の給与だけは、類似団体より多い（H25年度より増額もしている）